

熊本国際観光コンベンション協会

- 3.15 古写真4点(山崎アルバム)
山都町教育委員会生涯学習課
- 3.15 錦絵 田原坂激戦之図
教育出版株式会社
- 3.24 近藤樵仙筆 加藤清正肖像画
有限会社オフィステイク2
- 3.29 熊本城下町絵図
株式会社ランズ
- 3.31 西南戦争関係資料(目録番号1~72)・
宝成就寺文書(全)・寿福寺文書(全)
玉名市立歴史博物館ころろピア
- 3.31 熊本城南面大観図
熊本城下絵図(熊本城顕彰会寄託)
株式会社創朋

(4) 資料の保存

ア 刀剣手入れ

収蔵刀剣保存管理を4回実施した(正海刀剣研磨処)。

イ 博物館資料のくん蒸

6月9日(火)から12日(金)の4日間、当館所蔵の歴史・美術工芸資料、民俗資料に対してエキヒュームSによるくん蒸を行った。

ウ 美術工芸資料の修復

杉村家に伝わった大身槍(館蔵品)の錆取りを実施した(正海刀剣研磨処)。

薙刀(館蔵品)の研磨を実施した(正海刀剣研磨処)。

秋山平十郎作《加藤清正神像》の修復を実施した(浦仏刻所)。

エ 歴史資料修復

細川忠興所用具足(公益財団法人 永青文庫所蔵)のレプリカ製作を行った(西岡甲房)。

歴史資料5点(「杉谷雪樵筆 虎之図」、「詫摩原合戦図」、「妙解院殿御墓所図」、「熊本字地図」、「横井小楠書状」、「錦絵帖」)を修復した(株式会社

大入)。

歴史資料4件5点(「熊本城南面大観図」、「伝杉谷雪樵筆 加藤清正公像」、「(下村家文書)加藤清正判物」、「西南戦図(2巻)」)のレプリカ製作を行った(株式会社 インタージャム)

(5) 資料整理作業

ア 考古分野

リニューアル工事に伴う引越作業に先立ち、収納箱単位にラベルを貼付け、その管理リストとして資料一覧表を作成した(4月~7月)。また実際の引越しに際しては、常温倉庫・定温倉庫に分けて通し番号を付与し、保管している(8月~3月)。また倉庫内では定点観測する資料をあらかじめ決めておき(古墳時代金属製馬具)、サビの進行や劣化が見られないか、毎月確認を実施している。

イ 歴史・美術工芸分野

熊本城顕彰会資料について、リストと資料とを突き合わせ、確認作業を行った。

歴史分野では新規受け入れ資料の整理・データベース登録を行った。また、三宅家資料未整理分の整理・データベース登録を行った。その他前年度に引き続き、収蔵庫内の仮整理資料の登録~中性紙箱への移し替えを順次行った。

美術工芸分野では刀剣に関するデータの整理を行った。また、刀剣研究の専門家6名による館蔵刀剣調査を行った。

ウ 民俗分野

糸車に生えたカビや埃を除去し、引越しに向けて梱包準備を行った。

5 報 告

(1) 学校教育支援事業

「ゲストティーチャー派遣授業」

ア 実施の経緯

社会教育・生涯学習施設である博物館と学校の連

携（博学連携）については、その必要性・重要性が以前にも増して高まってきた。そのような状況をふまえて、これまで行ってきた様々な教育普及活動の中で、学校教育に関わる部分を強化すべく、リニューアルを機に資料の見直し作業を進めると共に、教材として価値のある資料と学芸員の知識や技能を授業の中で有効活用するため「ゲストティーチャー派遣授業」を行うことにした。

イ 平成27年度の取り組み

派遣授業の実施にあたり、昨年度は小学校社会科・理科の年間指導計画や、学芸員が提供可能な「学習プログラム」を示した「博物館利用の手引き2014」を作成した。また、平成27年度末には改訂版「派遣授業：学習プログラム集2016」を作成し、市内全ての小中学校（約140校）に配布した。

平成26・27年度の2年間は小学校2校（A校・B校）を「学校教育支援事業モデル校」に指定し、1校あたり年間20プログラム以上、総授業時数40～50時間程度を目標に派遣授業を行った。

2年間の実績総計は100プログラム・230時間を超え、平成27年度は1年間で55プログラム・129時間となった。

ウ ゲストティーチャー派遣授業の内容

【A校での実践（26プログラム：73時間）】

（ア）6年社会「三内丸山遺跡と縄文のむら」

縄文時代については未習であったが、校区周辺の遺物（榎木遺跡から出土した考古資料など）にも触れさせ、興味・関心を高めた。

派遣日 4月15日（水）



授業者 美濃口 紀子（考古）

児童数 約90名（クラス別3時間）

（イ）4年理科「身近な生き物観察（春）」

学校近辺の公園で昆虫や植物の観察を行った。身近な環境の中で、互いに関わり合いながら多様な動植物が暮らしていることに重点を置いた。

派遣日 4月21日（火）

授業者 清水 稔（動物）

山口 瑞貴（植物）

児童数 約90名（3クラス合同3時間）

（ウ）3年理科「身近な動物の様子（春）」

教室で観察のポイントを説明した後、校庭に出て昆虫の観察を中心に行った。無毒の毛虫に触れる体験もできて、興味津々の様子だった。

派遣日 5月1日（金）

授業者 清水 稔（動物）

児童数 約90名（クラス別3時間）

（エ）5年社会「昔の米作りの一年間：熊本版」

米作りに使われていた実物資料（犁・田植え綱など）4点を持参し、米作りの過程に必要な作業や道具類について対話しながら学習を行った。

派遣日 5月28日（木）

授業者 福西 大輔（民俗）

児童数 約90名（クラス別3時間）



（オ）3年理科「植物の一生（種子の観察）」

写真カードを元に植物の成長順を確認。また、種子の形状にまつわる子孫を残すための工夫と知恵に

について話し合った。「種模型」も製作した。

派遣日 6月12日(金)

授業者 山口 瑞貴(植物)

児童数 約90名(クラス別3時間)

(カ) 4年理科「電池のはたらき・自由研究」

「空気と水の学習」のまとめでペットボトルロケットを飛ばす予定が、天候不順のために標題の学習に変更。自由研究の進め方のヒントを与えた。

派遣日 6月26日(金)

授業者 山口 均(理工)

児童数 約90名(クラス別3時間)

(キ) 5年理科「自由研究のヒント(5年)」

宙返りバードという科学工作を取り入れ、「大きく回転しながら遠くまで飛ぶ」ための条件について話し合った。条件制御の大切さを伝えた。

派遣日 7月1日(水)

授業者 山口 均(理工)

児童数 約90名(クラス別3時間)

(ク) 6年理科「自由研究のヒント(6年)」

「液体(水など)の接着力、手乗りブーメランの跳躍」などを題材に、それぞれの条件制御について話し合った。ブーメラン製作も取り入れた。

派遣日 7月2日(木)

授業者 山口 均(理工)

児童数 約90名(クラス別3時間)

(ケ) 5年理科「花から実へ(種子)」

雄花・雌花の学習の予定であったが、未習のため「種子の観察」に変更。種子の写真・標本・散布方法パネルを準備して学習を進めた。

派遣日 9月2日(水)

授業者 山口 瑞貴(植物)

児童数 約90名(クラス別3時間)

(コ) 3年総合「キャリア教育:学芸員を志して」

理科は将来の仕事につながる可能性を秘めた有用な教科であることを、2人の学芸員の体験談をもと

に紹介した。観察等の作業も取り入れた。

派遣日 9月9日(水)

授業者 山口 瑞貴(植物)

南部 靖幸(地質)

児童数 約80名(3クラス合同1時間)

(サ) 6年理科「月と太陽の表面観察」

太陽投影板を用いて、太陽の形や黒点の様子を全員に観察させることができた。月の形および、太陽と月との位置関係についても確認した。

派遣日 9月10日(木)

授業者 野村 美月(天文)

児童数 約90名(クラス別3時間)



(シ) 4年社会「通潤橋ができるまで」

昨年度は実物資料を提示したが、今回はスライドとワークシートを元に学習を進めた。見学旅行の直後であり、質問に対する反応も良かった。

派遣日 10月15日(木)

授業者 木山 貴満(歴史)

児童数 約90名(クラス別3時間)

(ス) 4年理科「月や星~半月の観察」

3クラス合同での学習となり、望遠鏡を使った観察は行わなかった。ワークシートを用いて月の観察方法を指導し、屋上で観察の練習をした。

派遣日 10月20日(火)

授業者 野村 美月(天文)

児童数 約90名(3クラス合同1時間)

(セ) 5年理科「流れる水~白川をめぐる旅」

白川：各流域の写真、白川と緑川の石、自作の流水パワー実験教具等を活用して、流れる水のはたらきについての理解を深めるよう工夫した。

派遣日 10月21日（水）

授業者 南部 靖幸（地質）

児童数 約90名（クラス別3時間）

（ソ）6年理科「大地～化石の見つかる場所」

化石ができるまでの一般的な過程を紹介し、様々な地層から見つかる化石の特徴と堆積環境について説明した。始祖鳥レプリカも活用した。

派遣日 11月5日（木）

授業者 南部 靖幸（地質）

児童数 約90名（クラス別3時間）

（タ）4年理科「ものの温度と体積（まとめ）」

導入（指導者による演示）として、お湯をかけるのと噴水が上がる装置を見せた。グループごとに追実験（3回）をさせ、理由を話し合った。

派遣日 11月26日（木）

授業者 山口 均（理工）

児童数 約90名（クラス別3時間）

（チ）3年理科「ものの重さと体積（導入）」

フィルムケースに入れた重さの異なる3種類のを準備し、手に持ったり天秤を使ったりしてグループごとに重さ比べに挑戦した。

派遣日 11月27日（金）

授業者 山口 均（理工）

児童数 約90名（クラス別3時間）

（ツ）4年理科「水の温まり方」

ヨウ素でんぷん液は温まると透明（少し白濁）になる様子から、水は上の方から温まることや金属の温まり方とは異なることを確かめた。

派遣日 12月9日（水）

授業者 山口 均（理工）

児童数 約90名（クラス別3時間）



（テ）3年総合「博物館・美術館について」

熊本博物館、熊本県立美術館、熊本市現代美術館を取り上げ、その役割や注意事項などを話し合った。グループ毎に学習シートも準備した。

派遣日 12月18日（金）

授業者 甲斐 由香里（保存科学）

児童数 約90名（クラス別3時間）

（ト）3年理科「豆電球のおもちゃショー」

豆電球が点いたり消えたりするおもちゃを3種類紹介し、その中の1つを使って一緒に遊んだ。おもちゃの秘密を話し合い、課題作りをした。

派遣日 1月13日（水）

授業者 山口 均（理工）

児童数 約90名（クラス別3時間）

（ナ）6年社会・図工「室町文化～雪舟の墨絵」

歴史（社会）と図工の合科的な学習に取り組んだ。水墨画の歴史や「雪舟」について資料を元に説明した後、全員で水墨画に挑戦した。

派遣日 1月19日（火）

授業者 甲斐 由香里（保存科学）

児童数 約90名（3クラス合同2時間）

（ニ）4年図工「熊本城の絵を観察してみよう」

時代と作者が異なる熊本城の絵を活用した。全体を隅々まで観察したり、2枚を比較したりして気づきを交流し合い、鑑賞のヒントとした。

派遣日 1月27日（水）

授業者 竹原 明理（美術工芸）

児童数 約90名（3クラス合同1時間）



(ヌ) 5年社会「災害を防ぐ～水害と熊本」

熊本の「6.26水害」の記録写真と自作のワークシートを元に、被害の大きさを視覚的に訴えるとともに防災について考える機会を提供した。

派遣日 2月4日（木）

授業者 木山 貴満（歴史）

児童数 約90名（クラス別3時間）

(ネ) 6年理科「電気の利用（まとめ）」

電熱線スライサーで発泡スチロールをスライスし、それを利用したグライダー作りを行った。電熱線の太さと発熱量の違いも実験で確かめた。

派遣日 2月22日（月）

授業者 山口 均（理工）

児童数 約90名（クラス別3時間）

(ノ) 6年理科「身近な自然環境との関わり」

自然界で有機物が分解され、「食う・食われる」の関係を通じて生態系内を循環するしくみや、そのバランスが崩れる原因について解説を行った。

派遣日 2月25日（木）

授業者 清水 稔（動物）

児童数 約90名（クラス別3時間）

(ハ) 5年理科「ものの溶け方」

単元のまとめとして「ミョウバンの結晶作り」に取り組んだ。温度による食塩とミョウバンの溶け方の違いや、結晶ができる理由を確認した。

派遣日 3月2日（火）

授業者 山口 均（理工）

児童数 約90名（クラス別3時間）

【B校での実践（29プログラム：56時間）】

(ア) 6年社会「板付遺跡と米づくり（弥生）」

登呂遺跡の導入から熊本の弥生時代遺跡・遺物について紹介した。実物資料に触れたり、校区内遺跡の立地条件等について話し合ったりした。

派遣日 5月8日（金）

授業者 美濃口 紀子（考古）

児童数 約60名（クラス別2時間）

(イ) 6年社会「巨大古墳と豪族」

大仙古墳の導入から熊本の古墳時代遺跡・遺物について紹介。現在発掘中の校区内遺跡についてタイムリーな情報提供を行い、関心を高めた。

派遣日 5月27日（水）

授業者 美濃口 紀子（考古）

児童数 約60名（クラス別2時間）

(ウ) 5年理科「花のつくり～種子の観察」

種子の形成過程や普段食べている野菜の種子などを導入で紹介。クイズ形式で種子とその散布方法について考えさせた。種模型の製作あり。

派遣日 5月28日（木）

授業者 山口 瑞貴（植物）

児童数 約60名（クラス別2時間）

(エ) 4年総合「江津湖の生き物と環境」

例年、江津湖を題材とした学習に取り組む学年である。プレゼンテーション資料を元に江津湖に生息する生き物とその環境について解説した。

派遣日 6月23日（火）

授業者 清水 稔（動物）

児童数 約50名（2クラス合同2時間）

(オ) 6年理科「体のつくりとはたらき～呼吸」

複数の骨格資料を元に、各種脊椎動物の呼吸方法を骨格の違いや暮らしぶりに関連付けて解説。自分（ヒト）との比較を通して深い理解を促した。

派遣日 6月24日（水）

授業者 清水 稔（動物）

児童数 約60名（クラス別2時間）



(カ) 4年総合「プチ考古学講座入門」

学校敷地内の発掘調査で出土した遺物を見たり触れたりする機会を設けた。遺跡と化石の違いについても説明し、興味・関心を高めた。

派遣日 6月24日(水)

授業者 美濃口 紀子(考古)

児童数 約50名(クラス別2時間)

(キ) 4年理科「光電池のはたらき(まとめ)」

複数の光源、電子オルゴール、モーター、LED豆電球を準備し、光の強さや光電池の傾きによって光電池のはたらきが変わることを理解させた。

派遣日 6月25日(木)

授業者 山口 均(理工)

児童数 約50名(クラス別2時間)

(ク) 4年理科「自由研究のヒント(4年)」

空気砲でピン(プラコップ)を倒す体験を通して、「空気砲のパワーを大きくする工夫」を問いかけ、関係する条件等について話し合った。

派遣日 7月8日(水)

授業者 山口 均(理工)

児童数 約50名(クラス別2時間)

(ケ) 6年社会「豊臣秀吉と加藤清正」

教科書に沿って信長・秀吉・家康について復習した後、後半はワークシートとプレゼン資料を元に清正と熊本城に関する解説を行った。

派遣日 7月8日(水)

授業者 木山 貴満(歴史)

児童数 約60名(クラス別2時間)

(コ) 6年総合「博物館・美術館入門」

夏休み期間中などに博物館や美術館を訪れる機会があるとの想定で学習を進めた。見学のポイントや注意事項についてスライドで紹介した。

派遣日 7月9日(木)

授業者 甲斐 由香里(保存科学)

児童数 約60名(2クラス合同1時間)



(サ) 5年理科「自由研究のヒント(5年)」

宙返りバードという科学工作を取り入れ、「大きく回転しながら遠くまで飛ぶ」ための条件について話し合った。条件制御の大切さを伝えた。

派遣日 7月10日(金)

授業者 山口 均(理工)

児童数 約60名(クラス別2時間)

(シ) 5年理科「雄花・雌花と受粉」

花の解剖図を示したプリントと花模型を見せながら、花のつくりやおしべとめしべの多様性、雄花と雌花について比較・解説を行った。

派遣日 9月11日(金)

授業者 山口 瑞貴(植物)

児童数 約60名(クラス別2時間)

(ス) 6年理科「水溶液～ムラサキキャベツ紙」

リトマス紙の代用指示薬として活用できる「ムラサキキャベツ紙」作りを行った。酸性・中性・アルカリ性域での色変化を楽しむことができた。

派遣日 10月14日(水)

授業者 山口 均(理工)

児童数 約60名(クラス別2時間)

(セ) 4年社会「通潤橋ができるまで」

昨年度は実物資料を提示したが、今回はスライドとワークシートを元に学習を進めた。見学旅行を控えており、たくさんの質問が寄せられた。

派遣日 10月14日(水)

授業者 木山 貴満(歴史)

児童数 約50名(クラス別2時間)



(ツ) 支援学級生活単元「アンモナイトレプリカ作り」

作業を簡略化するため、表面が平滑な殻のアンモナイト：片面だけの型を準備した。石膏が固まる際の発熱やできたレプリカに大喜びだった。

派遣日 10月29日(木)

授業者 南部 靖幸(地質)

児童数 約10名(クラス合同1時間)



(ソ) 5年理科「流れる水～白川をめぐる旅」

白川：各流域の写真、白川と緑川の石、自作の流水パワー実験教具等を活用して、流れる水のはたらしについての理解を深めるよう工夫した。

派遣日 10月14日(水)

授業者 南部 靖幸(地質)

児童数 約60名(クラス別2時間)

(テ) 4年理科「ものの温度と体積(導入)」

導入(指導者による演示)として、お湯をかけるると噴水が上がる装置を見せた。グループごとに追実験(3回)をさせ、課題作りをした。

派遣日 11月5日(木)

授業者 山口 均(理工)

児童数 約50名(クラス別2時間)

(タ) 3年理科「植物の一生～種子の観察」

種子の形状には多くの子孫を残すための工夫と知恵が詰まっていることをクイズ形式で紹介。紙の「種模型」も製作し、飛ばされ方を比べた。

派遣日 10月14日(水)

授業者 山口 瑞貴(植物)

児童数 約50名(クラス別2時間)

(ト) 6年理科「大地～ヒマラヤのアンモナイト化石」

標本とスライドショーを用いて学習を行った。また、自作の大陸パズルを使って現在に至るまでの大陸配置の変遷と地層の隆起過程を説明した。

派遣日 11月25日(水)

授業者 南部 靖幸(地質)

児童数 約60名(クラス別2時間)

(チ) 6年社会「熊本と明治の新しい世」

実物資料の代わりにスライド枚数と質問を増やす構成にした。明治の熊本新聞(複写)を現在のものと比較させたところ大いに興味をもった。

派遣日 10月21日(水)

授業者 木山 貴満(歴史)

児童数 約60名(クラス別2時間)

(ナ) 4年理科「水や空気の温まり方」

ヨウ素でんぷん液での水の対流実験、ビニル袋製熱気球飛ばし、ミニ理科室の底部・中央部・上部の温度調べを通して温まり方のまとめをした。

派遣日 12月17日(木)

授業者 山口 均(理工)

児童数 約50名(クラス別2時間)

(ニ) 5年理科「電磁石のはたらき」

「コイルモーター」作りを行った。電磁石（コイル）と永久磁石の組み合わせで回転するものができることを体験的に学ぶ目的で取り組んだ。

派遣日 12月18日（金）

授業者 山口 均（理工）

児童数 約60名（クラス別2時間）

(ヌ) 4年理科「季節の星空解説」

簡易プラネタリウムでの星座鑑賞を予定していたが機器不調のため内容を変更。小冊子を使った星座・日食・月食解説およびDVD鑑賞等。

派遣日 1月14日（木）

授業者 野村 美月（天文）

児童数 約50名（クラス別2時間）

(ネ) 3年理科「豆電球のおもちゃショー」

豆電球が点いたり消えたりするおもちゃを3種類紹介し、その中の1つを使って一緒に遊んだ。おもちゃの秘密を話し合い、課題作りをした。

派遣日 1月15日（金）

授業者 山口 均（理工）

児童数 約50名（クラス別2時間）

(ノ) 3年理科「電気を通すもの通さないもの」

電気を通すものと通さないものを調べるチェッカーと「調べるものセット」を準備して臨んだ。電気を通すものは金属であることを確認した。

派遣日 1月15日（金）

授業者 山口 均（理工）

児童数 約50名（クラス別2時間）

(ハ) 5年総合「キャリア教育：学芸員を志して」

理科の学習は将来の仕事につながる可能性を秘めた有用な教科である。学芸員を志した理由その他を2人の学芸員が体験談をもとに紹介した。

派遣日 1月29日（金）

授業者 山口 瑞貴（植物）

野村 美月（天文）

児童数 約60名（クラス別2時間）



(ヒ) 3年社会「地域の行事・まつり（祭り）」

昨年度は実物資料を持参したが、今回はパワーポイントとプリントによる学習。季節の祭りや地域の行事の紹介と、祭りの社会的な役割を伝えた。

派遣日 2月12日（金）

授業者 福西 大輔（民俗）

児童数 約50名（クラス別2時間）

(フ) 5年理科「ものの溶け方」

単元のまとめとして「ミョウバンの結晶作り」に取り組んだ。温度による食塩とミョウバンの溶け方の違いや、結晶ができる理由を確認した。

派遣日 2月19日（金）

授業者 山口 均（理工）

児童数 約60名（クラス別2時間）

(ヘ) 6年図工「作品鑑賞～熊本城の絵」

時代と作者が異なる熊本城の絵を活用した。全体を隅々まで観察したり、2枚を比較したりして気づきを出し合った。鋭い質問に驚いた。

派遣日 3月1日（火）

授業者 竹原 明理（美術工芸）

児童数 約60名（クラス別2時間）

(2) 子ども科学・ものづくり教室

ア 実施の経緯

熊本博物館は開館以来、自然・文化・歴史などの保存・継承さらには発信の拠点としての役割を果たしてきた。これに加え、近年は多様化・高度化する人々のニーズに応じた学習活動の支援をはじめ、多面的な機能を発揮することが求められている。

そのような中、当館では青少年が楽しく活動しながら自然科学の原理や技術（歴史や伝統文化なども一部含む）を体験的に学ぶことのできる機会を提供する目的で、「子ども科学・ものづくり教室」を平成11年度より開催している。

イ 平成27年度の取り組み

リニューアルに向けた準備が本格化し始めた平成25年度は本館での活動は困難との判断から会場を塚原歴史民俗資料館に移し、基本的には担当の研究者一人に対応可能な回数・内容に絞り込んで合計16回の教室を開催した（それ以前は、館外の教育機関や諸団体とも連携しながら年間25回程度の教室を行っていた）。

平成26年度中および平成27年6月まではリニューアル準備期間の延期に伴い、本体への着工は行われないとの見通しから会場を本館特別展示室（以下「本館」）と塚原歴史民俗資料館（以下「塚原」）の2ヶ所で開催した結果、平成26年度の開催数は32回に及んだ。しかし、平成27年7月からは全館休館に入り、再度「塚原」のみで行うことにしたため、本年度の教室開催は23回にとどまった。その内、2回は子ども文化会館（以下「子ども会館」）を利用した。

教室内容は、理工分野に関するテーマがほとんどであるが、植物・考古・地質分野に関する内容も各学芸員に依頼して数回ずつ行った。また、熊本市「ものづくりサークル」には6回の教室で実技補助等の協力をしていただいた。

ウ 子ども科学・ものづくり教室の内容

（ア）アンモナイトのレプリカを作ろう

本年度も地質担当学芸員による講話と実技指導を行った。アンモナイトの型枠に石膏を流し込んで固めた後、型枠から外して墨を塗ると、市販品にも劣らないアンモナイトのレプリカができあがった。石膏が固まる時間や製作後の時間帯にはアンモナイトに関するプレゼンテーション解説も行った。現生のオウムガイとの比較などもあり、興味深く聞き入る親子の姿が見られた。

日 時 ① 4月18日（土）：本館
② 7月18日（日）：塚原
13時30分～15時

指導者 南部 靖幸（地質）
山口 均（理工）

参加者 ① 35名 ② 32名



【着色前のアンモナイトレプリカ】

（イ）巴形銅器のレプリカを作ろう

南区城南町にある構口（かまえぐち）遺跡より出土した弥生時代の青銅器：巴形銅器の縮小鋳型の中に融かした低融点合金を流し込み、レプリカ作りを行った。製作の前には、資料室の展示物を見学しながら考古担当学芸員（塚原）が時代背景や巴形銅器の意義・役割等について説明した。

日 時 4月26日（日）：塚原
13時30分～15時

指導者 清田 純一（考古）
山口 均（理工）

参加者 25名

（ウ）おもしろ実験に挑戦！

色と光、振動と回転、振り子の周期等をテーマに、複数の実験・工作・体験コーナーを準備した。

光の全反射を利用した実験・工作、ムラサキキャベツの色変化を楽しむ「お絵かき」、振動を回転に変える「ガリガリとんぼ」の体験コーナーなど、不思議な時間を楽しんでいただいた。

日 時 5月9日（土）：塚原
13時30分～15時30分

指導者 山口 均 (理工)
協力者 ものづくりサークル会員6名
参加者 18名



【おもしろ実験：会場の様子】

(エ) 宙返りバードを作ろう

畳などの断熱材として使われるスタイロフォームを、電熱線カッターで1mm程度の厚さにスライスしておく。それをハサミで定型に切り取り、鳥の形に組み立てる。鳥の頭部に厚紙のおもりをつけ、翼の傾きを工夫して飛ばすと、空中で後方宙返り（一回転）をする。参加者は、おもりを重くすると回転が大きくなることに気づき、何度も何度も楽しそうに鳥を飛ばしていた。

日時 ① 5月16日 (土)：塚原
② 2月27日 (土)：子ども会館
13時30分～14時30分

指導者 山口 均 (理工)
参加者 ① 21名 ② 25名



【一回転する仕組みの解説】

(オ) 紙パックカメラを作ろう

紙パック（や工作用紙）とレンズを組み合わせて簡易カメラを製作した。写真撮影はピントの調節が

難しかったが、楽しい活動ができたように思う。スクリーン上に結ばれた像が上下左右、逆転する画像も確認できた。天候に恵まれず、明暗のコントラストがはっきりしないものが多かったため家庭での再挑戦を促した。

日時 ① 5月17日 (日)：本館
② 8月29日 (土)：塚原
13時30分～15時

指導者 山口 均 (理工)
参加者 ① 41名 ② 21名

(カ) 箱の中に虹を作ろう

工作用紙で作った箱の底面には覗き窓を開け、そこに分光シートを取り付ける。もう一方の底面にはスリット窓を開け、簡単な線や記号をカッターで切り抜いた画用紙をセットする。覗き穴に目を近づけ、スリット窓を蛍光灯などの光源に向けると（太陽を直接見てはいけない）、切り抜いた形がそのまま虹色のスペクトルとなる。この虹は、切り抜いた形を中心として上下左右斜め方向の8ヶ所で観察できる。波長の違いによる光の屈折の様子（イメージ）をモデル的に解説した。

日時 ① 6月14日 (日)：塚原
② 11月22日 (日)：子ども会館
13時30分～15時

指導者 山口 均 (理工)
協力者 ものづくりサークル会員5名
（協力者は11月22日のみ参加）
参加者 ① 23名 ② 29名



【虹の箱の製作風景】

(キ) 科学手品&液体窒素実験ショー

家庭でも簡単にできる科学手品（空気中に浮かぶスチロール球、落ちない水と落ちないリング、水中で消えてしまう絵「えっ!？」）を披露したり、液体窒素実験ショーを行ったりした。ショーの間には科学手品に関連する「ものづくり」ブースも準備し、2時間たっぷり科学の楽しさに浸ってもらった。複数のブースを開設するため、熊本市「ものづくりサークル」にも多大な協力をいただいた。

地質担当学芸員による液体窒素実験ショーは20分の枠で3回開催したが、昨年にも増して多くの家族連れを魅了した。

日時 ① 6月27日(土):本館

② 8月1日(土):塚原

13時30分～15時30分

指導者 山口 均 (理工)

南部 靖幸 (地質)

野村 美月 (天文) ※ ①のみ参加

協力者 ものづくりサークル会員6名

参加者 ① 264名 ② 93名



【バラの花を液体窒素で冷やすと・・・】

(ク) くるくる回るシャボン玉を作ろう

マジックで赤・緑・青(光の三原色)に着色したOHPシートを6mm幅で細く切ったものを準備する。色を塗らない無色透明のシートも含めて各2枚ずつ、合計8枚をボール状に組み立て、軸をゆっくり回すと三色の残像が重なり合って本物のシャボン玉のように見える。光の三原色、残像、遠心力について簡単な解説を加えた。

日時 7月26日(日):塚原

13時30分～15時

指導者 山口 均 (理工)

参加者 24名



【くるくる回るシャボン玉作り】

(ケ) 大気圧と真空の実験ショー

普段は、その存在すら意識することの少ない「空気」をテーマにした定番のショー。ゴム吸盤のパワー、手作りマグデブルグ半球、つぶれるペットボトルとアルミニウム缶、真空ポンプを使った「膨らむ風船・水の減圧沸騰」などを披露した。

減圧沸騰後の容器に恐る恐る指先を近づける子どもたちの姿が微笑ましかった。

日時 8月16日(日):塚原

※ 午後の時間帯に3回実施

13時30分～、14時30分～、

15時30分～ (各25分)

指導者 山口 均 (理工)

参加者 28名



【手作りマグデブルグ半球を使って】

(コ) 水中UFOキャッチャーを作ろう

浮力について体験的に学ぶことのできる楽しい

ものづくり。水を満たした炭酸系のペットボトル（500mL）に、水と空気の量を調節した金属フック付きの浮沈子（魚型たれビン）を入れる。ふたを締めてペットボトルに力を加えると浮沈子の容積が小さくなるため浮力も小さくなって沈む。浮力を調節し、水中のリングをフックで釣り上げて遊べるよう工夫したものである。

日時 8月23日（日）：塚原

13時30分～15時

指導者 山口 均（理工）

参加者 36名



【うまくリングが拾えるかな？】

（サ）コイルモーターを作ろう

「フレミングの左手の法則」について学ぶものづくりを行った。コイルの形を円形に保持したり、エナメル線の巻き始め・巻き終わりを紙やすりで剥がしたりする作業が難しいが、製作補助具を工夫することで、多くの参加者が時間内にコイルを回転させることができるよう配慮した。

（製作補助具：コイルを作るための「木片（切れ込み付き）」や、二つ折りにした工作用紙にコイルを挟み込んで形状が崩れないようにした「コイル挟み」等）

日時 9月19日（土）：塚原

13時30分～15時

指導者 山口 均（理工）

参加者 19名

（シ）葉脈標本でしおりを作ろう

植物担当学芸員の協力を得て行った。葉脈の種類

とはたらきについて解説したあと、水酸化ナトリウム水溶液で処理したヒイラギ・ヒイラギモクセイ（中和後に酢を加え、弱酸性の状態を提供）の2種類の葉から葉肉を剥ぎ落とし、残った葉脈をラミネート加工して「しおり」に仕立てた。

日時 10月17日（土）：塚原

13時30分～15時

指導者 山口 瑞貴（植物）

山口 均（理工）

参加者 11名



【葉脈標本を作る前に・・・】

（ス）空気砲ボウリングを楽しもう

ダンボールで作るおなじみの「空気砲」。

「渦輪」ができる仕組みを説明したあと、親子で製作に取り組んでもらった。完成後はプラスチックコップをボウリングのピン状に6～10個並べ、数m離れた場所から空気砲で倒して遊んだ。

「渦輪」の形については、空気砲の中に線香の煙を溜めて打ち出し（フォグマシンが不調のため、線香の煙に急遽変更したが）、ドーナツ状の形を確認することができた。

日時 11月14日（土）：塚原

13時30分～14時30分

指導者 山口 均（理工）

参加者 11名

（セ）静電気実験ショー

空気が乾燥する時期によく経験する「静電気」をテーマに、いくつかの実験や現象を紹介した。

下敷きで髪の毛を擦って引き寄せる簡単な実験か

ら、バンデグラフを使った火花放電まで、参加者は興味津々の様子で見入っていた。

電気コップを使った「百人おどし」やビニル紐を帯電させた「電気くらげ」は、ショーの終了後、自由体験の時間を設けた。「電気くらげ」の不思議な浮遊感を楽しむことができた。

日時 12月13日(日): 塚原
※ 午後の時間帯に3回実施
13時30分～、14時30分～、
15時30分～ (各25分)

指導者 山口 均(理工)
参加者 14名

(ソ) 活性炭電池を作ろう

冷蔵庫内の脱臭や水槽内の水質浄化にも利用されている活性炭を使って電池作りを行った。電池は身近な材料でも簡単に作ることができることを実物を通して紹介し、その電池でモーターを回したり電子オルゴールを響かせたり低電圧LED豆電球(極性に注意が必要)を光らせたりする体験の場を設けた。一人2個ずつ作り、直列つなぎにすると確かにパワーアップすることをモーターの回転スピードで確かめた。

日時 12月19日(土): 塚原
13時30分～15時
指導者 山口 均(理工)
協力者 ものづくりサークル会員3名
参加者 15名



【作った電池で明かりが点くかな?】

(タ) 静電気グッズを作ろう

「静電気実験ショー」で披露していた2種類の静電気グッズ(電気コップと電気くらげ)を作って遊ぶ予定にしていた。しかし、この日は熊本市では珍しい大雪となり、参加者はかなり少なくなりました。材料を手渡し、製作方法を足早に説明した後は、家庭に持ち帰ってから作って楽しんでもらうよう伝え、短時間で教室を終えた。

日時 1月24日(日): 塚原
13時30分～14時30分
指導者 山口 均(理工)
参加者 3名

(チ) 家庭でできる科学工作

紙コップやプラスチックコップ、ゴムや釣り用のおもりを使った簡単な科学工作を紹介した。

スライムを作ったり、紙back(紙バック:ゴムの振れが元に戻る力を利用した昔遊びのおもちゃ)を作ったりした他、比重の異なる食塩水に食紅で色を着け、試験管の中で地層ならぬ「水層」作りにも挑戦した。紙笛やストローとんぼも作って遊び、時間を忘れて楽しんでいる参加者の様子が窺えた。

日時 2月14日(日): 塚原
13時30分～15時30分
協力者 ものづくりサークル会員6名
指導者 山口 均(理工)
参加者 21名



【実験&科学工作】

(ツ) 風船CDホバークラフトを作ろう

外から力が加わらなければ静止しているものはずっと動かず、動いているものは等速直線運動を続

けるという「慣性の法則」と、動きに抗う「摩擦力」について学ぶものづくりを行った。

CD ホバークラフトの滑らかな動きを、興味深く見つめる子どもたちの姿があった。

「慣性の法則」の補足実験として、市販の「だるま落とし」も体験してもらった。

日 時 3月5日(土):塚原
13時30分～14時30分

指導者 山口 均(理工)

参加者 14名

(3) 総合的な学習など学校行事と博物館

ア 大江小学校3年総合的な学習

日 時 6月18日(月)
9時40分～11時25分

場 所 大江小学校3学年各教室

内 容 植物の種子について

参加者 児童64名

講 師 山口 瑞貴(植物)

イ 画図小学校4年総合的な学習

日 時 7月1日(水)
14時15分～15時

場 所 画図小学校体育館

内 容 江津湖に生息する生物についての話

参加者 児童174名

講 師 清水 稔(動物)

ウ 城北小学校第4学年PTA活動

日 時 12月17日(木)
14時45分～16時15分

場 所 城北小学校体育館

内 容 科学・ものづくり各種

参加者 158名(児童・保護者・教師)

講 師 山口 均(理工)

エ 慶徳小学校第5学年PTA活動

日 時 2月13日(土)
9時30分～12時

場 所 慶徳小学校図工室

内 容 科学・ものづくり各種

参加者 23名(児童・保護者・教師)

講 師 山口 均(理工)

オ 熊本県立宇土中学校1年生キャリア教育

日 時 12月18日(金)
13時55分～15時45分

場 所 宇土中学校技術家庭科棟学習室A・B

内 容 職業講話「学芸員の仕事」

参加者 熊本県立宇土中学校1年生80名

講 師 清水稔(動物)

(4) 学校以外への講師参加

ア 「地質の日」企画

「身近に知る『くまもとの大地』」

主 催 「地質の日」くまもと実行委員会

日 時 5月10日(土)10時～16時

場 所 御船町恐竜博物館

内 容 体験コーナー 熊本博物館担当分

・重鉱物の採集法の擬似体験

・フズリナ磨り出し体験

フズリナ化石を含む石灰岩を研磨し、化石を観察する体験

参加者 133名(重鉱物56名、フズリナ77名)

講 師 南部 靖幸(地質)

山口 均(理工)

イ 親子環境探検隊

主 催 熊本市環境総合センター

日 時 5月23日(土)
5月30日(土)
いずれも9時～12時

場 所 上江津湖

内 容 水生生物観察会

参加者 いずれも30名

講 師 清水 稔(動物)

ウ 崇城大学 ecoactive 同好会観察会

日 時 6月18日(土)
16時30分～18時

場 所 崇城大学芸術学部前ビオトープ
内 容 敷地内で見られる生物の観察
参加者 8名
講 師 清水 稔 (動物)

13時30分～14時30分

場 所 熊本大学全学教育棟 A 棟
内 容 熊本の文化と歴史
参加者 約60名
講 師 竹原 明理 (美術工芸)

エ 立田山自然探検隊7月例会

日 時 7月5日 (日)
10時～12時
場 所 熊本市立田山「お祭り広場」
内 容 水辺の生物観察会
参加者 116名
講 師 清水 稔 (動物)

ケ くまもと森都心プラザ自主事業
「～くまもと彩発見～ロマン天体講座」

日 時 8月15日 (土) 16日 (日)
13時30分～16時
場 所 くまもと森都心プラザ2F
イベントスペース

内 容 ①最新の天文学・天文情報
②人工衛星とX線天文学
③星たまご 投影
④宇宙に関する職業

参加者 32名
講 師 野村 美月 (天文)

オ 金峰山学講座V

主 催 NPO 法人コロボックル・プロジェクト
日 時 7月12日 (日) 9時～12時
場 所 熊本市西区河内町川床
内 容 化石と生物を中心とした観察会
参加者 24名
講 師 南部 靖幸 (地質)

コ 桜木小児童育成クラブ天文講演会

日 時 8月26日 (水)
13時～14時30分
場 所 桜木地域コミュニティーセンター
内 容 夏の星座と宇宙
参加者 60名
講 師 野村 美月 (天文)
協力者 山口 均 (理工)

カ 「生き生き健康教室」

主 催 菊南病院
日 時 7月22日 (水) 13時10分～14時
場 所 菊南病院5階多目的ホール
内 容 「熊本の火山のお話」
参加者 60名
講 師 南部 靖幸 (地質)

サ 弓削校区青少年健全育成協議会天体観測会

日 時 9月19日 (土)
19時～21時
場 所 弓削地域コミュニティーセンター
内 容 月と夏の星座の観察
参加者 40名
講 師 野村 美月 (天文)
協力者 山口 均 (理工)

キ 小島小学校地域資源保全隊観察会

日 時 7月30日 (木)
13時～15時
場 所 小島町新地用水路
内 容 用水路に生息する生物の観察会
参加者 30名
講 師 清水 稔 (動物)

ク 熊本大学サマープログラム

主 催 熊本大学
日 時 7月30日 (木)

シ 水辺散策会

主 催 熊本市水の科学館
日 時 9月23日 (水・祝)

10時～11時30分、13時～14時30分
場 所 水の科学館周辺
内 容 自然観察会
参加者 19名
講 師 清水 稔 (動物)

ス 親子環境探検隊
主 催 熊本市環境総合センター
日 時 10月25日 (日)
9時30分～12時30分
場 所 金峰山少年自然の家周辺
内 容 自然観察会
参加者 41名
講 師 清水 稔 (動物)

セ 熊本城子どもわくわく体験学習
主 催 熊本市青少年育成課
日 時 10月25日 (日)
13時30分～14時30分
場 所 熊本市役所14階大ホール
内 容 熊本城にまつわる歴史的遺産及び伝統
文化等に関すること
参加者 約100名
講 師 木山 貴満 (歴史)
竹原 明理 (美術工芸)

ソ シンポジウム「動物園は博物館？」
主 催 熊本市動植物園・東海大学
日 時 11月28日 (土)
13時30分～15時30分
場 所 熊本市動植物園動物資料館
内 容 シンポジウムでの講演
講 師 清水 稔 (動物)

タ 学校と博物館をつなぐシンポジウム
日 時 1月30日 (日)
13時30分～16時
場 所 阿蘇プラザホテル
内 容 博学連携の現状と今後の志向
参加者 53名

講 師 山口 均 (理工)

チ 加藤神社崇敬会総会
日 時 3月6日 (日)
15時～16時
場 所 KKRホテル
内 容 清正公信仰について
参加者 加藤神社崇敬会 200名程度
講 師 福西 大輔 (民俗)

(5) ナイス・トライ事業の受け入れ
休館に伴い受け入れを行わなかった。

(6) 熊本県公立学校教員短期社会体験研修
休館に伴い受け入れを行わなかった。

(7) 教職員研修
休館に伴い実施しなかった。

(8) 引越し作業
全館リニューアル工事の着工に先立ち、館内の
収蔵資料及び什器類の引越し作業を行った。
なお、収蔵資料の引越し作業については、調査
研究「平成27年度熊本博物館リニューアルに伴
う資料引越の記録」にて詳細に報告する。

ア 収蔵資料の引越し作業
期 間 7月14日 (火)～9月11日 (金)
※ただし、事前の状態確認、一覧作成、
搬出先の振り分け作業期間は除く。
搬出先 民間会社貸倉庫
作業内容
資料状態確認、搬出資料一覧作成、箱番号等
配番、梱包、搬出作業および立会い、搬入作
業および立会い、倉庫内整理、等

イ 什器類の引越し作業
期 間 9月24日 (木)～9月26日 (土)
※ただし、事前の梱包、一覧作成、搬
出先の振り分け作業期間は除く。
搬出先 市有施設2ヶ所、民間会社貸倉庫1ヶ

所、民間会社所有ビル内1ヶ所

作業内容

搬出什器一覧作成、箱番号等配番、梱包、搬出作業および立会い、搬入作業および立会い、倉庫内整理、等

(9) 「みんなでまもる文化財
みんなをまもるミュージアム」事業
当館が上記事業の連携協力機関であるため、研修会やワーキング会議に参加した。

ア 「みんなでまもる文化財みんなをまもるミュージアム」事業第1回研修会

日時 11月29日(日)・11月30日(月)

会場 九州国立博物館

参加者 甲斐 由香里(保存科学)

イ 「みんなでまもる文化財みんなをまもるミュージアム」第2回研修会

「みんなでまもる文化財みんなをまもるミュージアム」事業にかかる情報収集

日時 1月23日(土)・24日(日)

会場 九州国立博物館

参加者 美濃口 紀子(考古)

ウ 「みんなでまもる文化財みんなをまもるミュージアム」第4回研修会

「みんなでまもる文化財みんなをまもるミュージアム」第5回ワーキング会議

日時 3月13日(日)・14日(月)

会場 九州国立博物館

参加者 竹原 明理(美術工芸)

(10) 熊本県博物館連絡協議会

今年度6月、熊本県立美術館より当館が事務局を引き継いだ。加盟館は44館(平成28年3月31日現在)。毎年、春に総会、秋に専門研修会を実施している。

ア 専門研修会

日時 11月20日(金)

会場 福岡市博物館

内容 特別展見学『新奴国展—ふくおか創世記—』・常設展見学・バックヤード見学・質疑応答など

参加者 県内の博物館・美術館職員等 25名

6 調査・研究及び刊行物

(1) 調査・研究

ア 基本的な考え方

博物館における調査・研究活動は、資料の収集・保存・展示・教育普及活動の根幹を成すものであり、当博物館の基本構想および理念を基本とし、次の点に留意して行う。

- その成果が市民に還元できるものであること。
- 当館の設立主旨に沿ったものであること。
- 将来、展示に活かされるものであること。
- 科学的・客観的なものであること。

イ 調査・研究の目標

(ア) 館共通

熊本の歴史と自然および科学技術についての研究を行う。

(イ) 分野別

【地質分野】

熊本県内を中心に地質・化石の調査を行う。

【動物分野】

熊本県内の動物分布に関する調査を行う。

【植物分野】

熊本県内の植物分布に関する調査を行う。

【理工分野】

楽しく活動しながら自然科学の原理や技術について体感できるような体験型プログラムの開発を目指すとともに、理工分野の新たな情報提供のあり方について調査・研究する(先進都市などの手法を参考にしながら)。

【考古分野】

熊本県内の埋蔵文化財に関する調査・研究を行う。また、寄贈されたコレクションについては、県外の資料についても調査・研究を行う。収蔵資料の多くは未整理なので、分類・整理・資料紹介に努め、市民や研究者などに、幅広く活用いただくことを目的とする。

【民俗分野】

熊本博物館所蔵の資料整理ならびに展示をすすめる、市民や来館者に新たな情報を提供することを目的とする。

【歴史・美術工芸分野】

熊本博物館所蔵資料の調査・整理を行い、歴史・美術史・工芸史の観点からの研究をすすめる、市民や来館者への情報提供、展示に活用するための準備に努める。

【保存科学分野】

熊本博物館の館内環境を調査し、展示品や収蔵品に適切な状態を保つことを目的とする。また、資料の修復などについて担当学芸員と相談の上、適切な処置の方法を考える。

ウ 平成27年度 調査・研究の目標および活動

【地質分野】

県内の主要化石産地視察
館蔵化石資料の整理・再調査
阿蘇中岳火山噴火の写真撮影と噴出物採集

【動物分野】

金峰山山系および江津湖の動物相調査

【植物分野】

金峰山および江津湖の植生調査

【理工分野】

- ・子どもの心の中に「不思議のタネ」をまくための科学実験・科学工作等の開発・充実。
- ・小学校の授業に活用できる学習プログラムや教材・教具等の開発・改善。

【考古分野】

- ・図録『黄金文化への憧れ—国指定重要文化財才園古墳出土品—』の刊行
- ・岩倉山中腹遺跡 昭和55年（1980）発掘調査の報告

- ・旧石器時代の石器資料紹介
- ・古墳時代鉄製品の資料紹介

【民俗分野】

- ・熊本博物館所蔵資料の整理・調査。
- ・地蔵祭りの調査。

【歴史分野】

- ・熊本城顕彰会資料をはじめとする寄託資料の確認・整理作業。
- ・歴史分野では館内仮整理資料の情報把握に努め、それぞれ中性紙箱への移し替えを順次実施。

【美術工芸分野】

- ・熊本城顕彰会および永青文庫をはじめとする、寄託資料の確認・整理作業。
- ・2月15日（月）～18日（木）にかけて、館蔵刀剣資料の調査（刀剣研究の専門家6名。塚原歴史民俗資料館にて実施）。
- ・資料修復にかかる助成金の申請（不採択）。
- ・熊本市内美術工芸資料の初歩的調査。

【保存科学分野】

館内環境（温湿度・浮遊塵・浮遊菌等）を測定し、年間を通じての動向を調査・比較。

リニューアルに伴う博物館収蔵資料の梱包・搬出搬入作業スケジュール調整や立会い、資料収蔵施設の温湿度調査を実施。

（2）刊行物

- ア 調査報告書『熊本市内の地蔵祭り —平成27年—』
- イ 収蔵資料目録『竹内家文書』
- ウ 図録『黄金文化への憧れ—国指定重要文化財才園古墳出土品—』

7

活動一覽

平成27年度 熊本博物館活動概況

	特別展・企画展	共催展	行事・イベント・教室	館外活動 派遣授業	講座・同好会	共催事業
地質	企画展「くまもと自然探検」(地質・動物・植物分野合同企画展) 5/30～6/30	「地質の日」企画「身近に知る『くまもとの大地』」5/10～24		学校教育支援事業(派遣授業): 6プログラム実施		
動物	企画展「くまもと自然探検」(地質・動物・植物分野合同企画展) 5/30～6/30			派遣授業: 5プログラム実施		
植物	企画展「くまもと自然探検」(地質・動物・植物分野合同企画展) 5/30～6/30	第49回 肥後しゃくやく展5/5～6 第55回 肥後朝顔秋の展示会9/4～6	塚原歴史民俗資料館 野外博物館 4/5、11/3	派遣授業: 8プログラム実施		
理工			子ども科学・ものづくり教室(23教室開催) 「液体窒素実験ショー」 「低融点合金を使った巴形銅器作り」 「虹の箱」「宙返りバード」他、 823名	派遣授業: 19プログラム実施		未開催(リニューアル後に再開予定①テクノサイエンスキッズ:熊本高専②科学の広場:崇城大学)
天文			一般放映・団体放映 4/1～6/30 ファミリーアワー(幼児・家族向け放映) 毎週土・日、祝 字幕付きプラネタリウム 1回 76名 天文講演会 1回 40名	派遣授業: 4プログラム実施	熊本大学教育学部理科教育(熊本大学にて) 10/9 23名	
考古	企画展「西南戦争古写真展」(4/14～5/24)にて「藤崎宮跡出土遺物」を展示			派遣授業: 4プログラム実施	考古学同好会6/19 28名	
歴史 美術工芸	企画展「西南戦争古写真展」(4/14～5/24)			歴史派遣授業: 5プログラム実施 美術派遣授業: 2プログラム実施		
民俗			ミニ・シンポジウム「熊本の民俗文化財とその魅力ー民俗文化財の記録と保護に関するミニ・シンポジウム」 日時 6月21日(日)13時～17時 会場 特別展示室 参加者 48名	派遣授業: 2プログラム実施		
保存科学				派遣授業: 3プログラム実施	塚原歴史民俗資料館考古学講座	

関係団体	その他教育普及	相談件数・報道対応	資料取扱	資料管理	調査研究
「地質の日」くまもと実行委員会	「地質の日」企画 「身近に知る『くまもとの大地』」 地質体験イベント 5/10 133名 金峰山学講座Ⅴ 7/12 24名 活き活き健康教室 7/22 60名	報道対応 2件 相談件数 約15件		データベース入力21件	
	○総合的な学習 (・泉ヶ丘小6/23 50名 ・画図小 4年生7/1 174名) ○立田山探検隊観察会 7/5 116名 ○水の科学館水辺散策会 9/23 19名 ○環境総合センター主催観察会 5/23 30名, 5/30 30名, 10/25 41名 ○県立宇土中学校キャリア教育 12/18 80名 など	報道対応 約10件 相談件数 約50件	資料貸出 1件 特別利用 1件	データベース入力22件	・江津湖の動物相調査 ・金峰山山系の動物相調査 ・熊本県内の魚類相調査
肥後朝顔涼花会	総合的な学習 (大江小3年生6/18 64名)	報道対応 3件 相談件数 19件		データベース入力47件	
熊本市ものづくりサークル	城北小学校4学年PTA活動 12/17 (158名) 慶徳小学校5学年・なかよし学級PTA活動 2/13 (23名)	報道対応 約10件 相談件数 約15件	資料貸出 1件		・自然科学の原理などを学ぶことのできる体験的プログラムの研究・開発 ・興味・関心、問題解決能力を高める教材開発 ・派遣授業：学習プログラムの開発
	弓削校区青少年健全育成協議会 「天体観測会・講演会」 9/19 40名 など	報道対応 約10件 相談件数 約25件			
考古学同好会 肥後考古学会		報道対応 約3件 相談件数 約15件	寄贈資料 1件 資料貸出 1件 特別利用 1件	リニューアル工事に伴う特別史跡熊本城跡内での発掘調査(5月～6月)及び建築現場掘削工事立会い(10月～3月)	・図録『黄金文化への憧れ』 ・「岩倉山中腹遺跡」 ・「旧石器資料紹介」 ・「古墳時代鉄製品二題」
永青文庫 熊本城顕彰会 島田美術館	熊本大学サマープログラム 7/30 約60名 熊本城子どもわくわく体験学習 10/25 約100名	相談件数約30件	寄贈資料 3件 資料貸出 0件 特別利用 15件 分館展示環境整備	【歴史・美術工芸】 資料引越しに伴い、収蔵資料の総点検を実施	【美術工芸】 ・2016年2/15～18にかけて、所蔵刀剣資料調査(刀剣専門家6名。塚原歴史民俗資料館にて実施)
熊本木曜談話会	○加藤神社崇敬会総会 日時 3月6日(日)15時～16時 場所 KKRホテル 内容 清正公信仰について 参加者 加藤神社崇敬会 200名程度	報道対応約10件 相談件数約20件	寄贈資料数 1件 特別利用 1件		地蔵祭りの研究
	平成28年文化財防災意見交換会(高知)	相談件数 10件	分館展示環境整備		平成27年度熊本博物館リニューアルに伴う資料引越の記録